

点検評価表(外郭団体)

I 団体の概要

(令和6年4月1日現在)

団体名	一般財団法人アグリオープンイノベーション機構		
所在地	沼津市西野字霞317	設立年月日	平成29年4月17日
代表者	代表理事 藤井 明	県所管課	経済産業部農業戦略課
設立に係る根拠法令等	一般社団法人及び一般財団法人に関する法律		
団体の沿革	2017/4/17 設立		
運営する施設	-		
団体ホームページ	http://aoi-i.jp/ https://aoi-forum.jp/		

出資者	出資額(千円)	比率(%)
静岡県	3,000	100.0
基本財産(資本金)計	3,000	100.0

役職員の状況(人)			
常勤役員	1	常勤職員	11
うち県OB	1	うち県OB	-
うち県派遣	-	うち県派遣	1
非常勤役員	12	非常勤職員	9
役員計	13	職員計	20

II 点検評価(団体の必要性)

1 団体の設立目的(定款)

この法人は、農林水産業及び関連産業分野における革新的な技術開発及び事業化を複数の主体が協働し実現するオープンイノベーションにより、産業の振興及び地域経済の発展に寄与することを目的とする。

2 団体が果たすべき使命・役割

アグリ(農業)を起点とし、オープンイノベーションにより農(農林水産分野)・食(食品分野)・健(健康分野)連携を推進し、科学技術・産業振興を進める本県のプロジェクト「先端農業プロジェクト(AOIプロジェクト)」の実施において、農食健の各主体間のビジネスマッチング(連携調整、販路開拓、事業化、資金調達支援等)など、オープンイノベーションの場「AOIフォーラム」を提供する役割を担っている。

3 団体を取り巻く環境

区分	内容
団体を取り巻く社会経済環境の変化や新たな県民ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者の健康志向の高まりから、安全・安心な農作物、機能性成分が多く含まれる食品が求められている。 ・就農人口の減少や働き手不足に加え、農業用燃油や肥料、農薬等の価格高騰に対応した効率的な生産も望まれ、環境負荷低減と農業の生産性の飛躍的な向上をもたらす技術開発が求められている。 ・消費者が求める食品を提供するマーケットイン型の農業生産と流通が求められている。
行政施策と団体活動との関係(役割分担)	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡県では、農業の生産性の向上と新しいビジネス展開で地域経済を発展させ、健康寿命の延伸を目指す「AOIプロジェクト」を推進している。県ではこのプロジェクト全体の推進を統括している。 ・当団体では研究の調整、研究成果の事業化やビジネス化を進めるため、農食健、農商工、産学官金の各分野の機関等の連携、コーディネートを担う。
民間企業や他の団体との関係(役割分担)	<ul style="list-style-type: none"> ・AOI-PARCに入居する大学と研究機関は、民間企業とともに新しい品種や技術の研究開発を行う。 ・また、民間企業や農業生産者は、オープンイノベーションでビジネス化を目指す会員制組織のAOIフォーラムに入会し、マッチング等を進める。 ・当団体は、AOIフォーラムを運営するとともに、入居する研究機関や企業及びフォーラム会員のシーズ・ニーズのマッチングをコーディネートし、ビジネス化を推進する。

4 事業概要

(単位:千円)

区分	事業名	事業概要	R5 決算	R6 予算
県補助	アグリオープンイノベーション事業	・オープンイノベーションの場「AOIフォーラム」の運営 ・農食健の各主体間のビジネスマッチング支援	95,878	95,525
国委託	ムーンショット型農林水産研究開発事業	・内閣府が所管する「ムーンショット型農林水産研究開発事業」の「循環型協生農業プラットフォームコンソーシアム」に参加し、「土壌微生物叢アトラスに基づいた環境制御による循環型協生農業プラットフォームの構築」のうち、研究成果の民間移転の促進を担当	400	600
国委託	商品コード標準化・ソースマーケティング技術による農水産物・食品流通の高度化(BRIDGE)	・内閣府が実施する「研究開発とSociety5.0との橋渡しプログラム」(BRIDGE)のうち、農林水産省が所管する「商品コード標準化・ソースマーケティング技術による農水産物・食品流通の高度化」のコンソーシアムに共同研究機関の一つとして参加。コンソーシアム内で開発される農産物物流の高度化システムについて、静岡県内の青果市場での省力化やコスト低減の実証実験を担う	1,264	4,000
自主事業	自主事業等	・フォーラム会費収入 ・コンサルティング 等	7,488	7,810
合 計			105,030	107,935

5 事業成果指標

指標の名称(単位)	目標(上段)及び実績(下段)				目標値(年度)
	R3	R4	R5	評価	
事業化件数(件)	5	6	7	A	累計27 (R4~R7)
	1	7	7		
事業化案件創出件数(件)	14	14	14	A	累計56 (R4~R7)
	7	17	16		
AOIフォーラム参画会員数(団体)	200	240	315	A	315 (R5)
	270	331	350		
()					()

※評価 … A:目標達成 B:目標未達成 C:目標未達成(乖離大)

6 事業成果の総括評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	<p>・オープンイノベーションのプラットフォームであるAOIフォーラムの参加事業者を増やすため、各種展示会への出展や金融機関への働き掛けを強化し、新規入会は58会員となった。</p> <p>・AOIフォーラム会員による新規事業化を促進するため、コーディネーターによるマッチングや会員交流会の開催、伴走支援などを実施し、16件の事業化案件を創出するとともに、7件の事業化につなげ、いずれも年度目標を達成した。</p>	○	<p>・事務局長を中心に各コーディネーターが積極的にオープンイノベーションの支援を行うなど、民間事業者の事業化に向けた取組が進んでいる。</p> <p>・各種展示会への出展強化やコーディネーターによるマッチング・伴走支援により、全ての指標において年度毎の目標を上回った。</p>

※判定欄 … ○:良好 △:改善を要する ×:抜本的な改革が必要

7 団体の必要性の評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	環境負荷低減と生産性、収益性の両立をテーマに、県内農業や関連産業のビジネスの拡大に向け、新事業や新商品、新サービスの創出に取り組んでいる。県内事業者の取組拡大に寄与し、実績も上げていることから、当団体の必要性は高いと評価できる。	○	・オープンイノベーションにより新たな価値を共創するAOIプロジェクトにおいて、コーディネーターによるビジネスマッチング等を通じ、企業・事業化の支援等を行う本団体の役割は重要である。 ・また、農・産・学・官・金の多様な主体で形成され、相互の交流の場である「AOIフォーラム」の運営においても、当プロジェクトの推進に貢献している。

※判定欄 … ○:良好 △:改善を要する ×:抜本的な改革が必要

8 団体改革の進捗状況(過去の行政経営推進委員会からの意見への対応状況)

行政経営推進委員会意見 (経営健全性に係る意見を除く)	対応状況			
	団体記載		県所管課記載	

※○:対応済 △:対応中 ×:未対応

Ⅲ 点検評価(経営の健全性)

1 財務状況

(単位:千円)

区分	R3 決算	R4 決算	R5 決算	評価	備考(特別な要因)	
健全性指標	単年度収支 (d-h)	-3,634	-64	-3,121	B	R元年度取得財産の減価償却による減
	経常損益 (a+b-e-f)	-3,634	-64	-3,121	B	R元年度取得財産の減価償却による減
	公益目的事業会計	-	-	-		
	収益事業等会計	-3,634	-64	-3,121		
	法人会計	-	-	-		
	剰余金	6,889	6,825	3,704	A	

※評価 … A:プラス B:特別な要因によるマイナス C:マイナス

区分	R3 決算	R4 決算	R5 決算	主な増減理由等	R6 予算	
資産の状況	資産	15,666	16,477	14,799		9,131
	流動資産	5,958	10,269	11,799		6,130
	固定資産	9,708	6,208	3,000	R元年度取得財産の減価償却による減	3,001
	負債	5,777	6,652	8,095		6,130
	流動負債	5,777	6,652	8,095	国プロジェクト等の返還金増加	6,130
	固定負債	-	-	-		-
	正味財産/純資産	9,889	9,825	6,704		3,000
	基本財産/資本金	3,000	3,000	3,000		3,000
	剰余金等	6,889	6,825	3,704	R元年度取得財産の減価償却による減	-
	運用財産	-	-	-		-
収支の状況	事業収益 (a)	97,656	104,559	104,811		107,935
	うち県支出額	77,275	88,185	95,878		95,525
	(県支出額/事業収益)	(79.1%)	(84.3%)	(91.5%)		(88.5%)
	事業外収益 (b)	-	66	219		-
	うち基本財産運用益	-	-	-		-
	特別収益 (c)	-	-	-		-
	うち基本金取崩額	-	-	-		-
	収入計 (d=a+b+c)	97,656	104,625	105,030		107,935
	事業費用 (e)	101,290	104,689	108,151	採用手数料発生による増	107,675
	うち人件費	64,025	70,075	69,777		75,244
	(人件費/事業費用)	(63.2%)	(66.9%)	(64.5%)		(69.9%)
	事業外費用 (f)	-	-	-		-
	特別損失 (g)	-	-	-		-
支出計 (h=e+f+g)	101,290	104,689	108,151		107,675	
収支差 (d-h)	-3,634	-64	-3,121		260	

2 経営改善の取組の実施状況と評価

事業費の適正な執行管理と支出の節約に努めた。

3 赤字の要因(前年度の単年度収支、経常損益が赤字の団体のみ記載)

令和元年度に取得した財産の減価償却

4 経営の健全性の総括評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	県からの補助金により事業を行っており、適正な執行による健全性確保を図るとともに、農作業管理アプリAOItraceの有料利用者の拡大や、AOIフォーラム会員会費の増加、国プロジェクトへの参加などによる自己財源の確保に努めている。	○	毎月補助金の執行状況を確認しており、効果的な事業運営が行われている。また、AOIフォーラム会員会費の増加等自己財源の確保に努めているため、更なる確保に期待したい。

※判定欄 … ○:良好 △:改善を要する ×:抜本的な改革が必要

5 団体改革の進捗状況(過去の行政経営推進委員会からの意見への対応状況)

行政経営推進委員会意見 (経営健全性に係るもの)	対応状況	
	団体記載	県所管課記載

※○:対応済 △:対応中 ×:未対応

IV 改善に向けた今後の方針

1 点検評価を踏まえた経営の方向性

今後の展望、中期的な経営方針(団体記載)	団体の方針に対する意見等(県所管課記載)
<p>・化学肥料の価格高騰などを踏まえ環境負荷低減と生産性、収益性の両立及び未利用資源の域内循環などを一層推進する。</p> <p>・AOIフォーラム会員のニーズに応じて、より高度で専門的な支援を強化し、その支援の対価など自主財源を確保し、それらを原資にしてより充実した事業を展開できる体制を目指す。</p> <p>・また、国のプロジェクトに参加するなど、外部資金を活用した事業化支援の取組を充実させていく。</p>	<p>・団体の活動を充実させるためには、新たな財源確保に向けた取組が必要である。</p>

2 今年度の改善の取組

団体の取組(団体記載)	団体の取組に対する意見等(県所管課記載)
<p>・令和6年4月に、AOIフォーラム会員規約を改定し、会員が取り組むオープンイノベーションのプロジェクトの支援について、予め会員事業者とAOI機構の間で協議し、支援内容について覚書を締結する仕組みを明示した。これにより、ゴールを明確にしたコーディネート活動を進めていく。</p> <p>・また、頻度が多い場合や高度な専門性を有する支援については、会員との合意の下、有償コンサルティングを行うことを明示した。</p>	<p>・支援内容に関する覚書締結による活動の明確化や、高度な支援についての有料化を確実に実施することによる、自主財源確保に向けた各種事業の収益化の推進が求められる。</p>

V 組織体制及び県の関与

1 役職員数及び県支出額等

(単位:人、千円)

区分	R3	R4	R5	R6	備考(増減理由等)
常勤役員数	1	2	1	1	
うち県OB	1	2	1	1	
うち県派遣	-	-	-	-	
常勤職員数	10	10	9	11	令和4年度末2人退職、令和5年度期中2人採用
うち県OB	1	-	-	-	
うち県派遣	1	1	1	1	
県支出額	77,275	93,854	95,878	95,525	
補助金	77,275	88,185	95,878	95,525	
委託金	-	5,669	-	-	
その他	-	-	-	-	
県からの借入金	-	-	-	-	
県が債務保証等を付した債務残高	-	-	-	-	

※役職員数は各年度4月1日時点、県支出額は決算額(当該年度は予算額)、借入金・債務残高は期末残高

2 点検評価(団体記載)

項目	評価	評価理由
定員管理の方針等を策定し、組織体制の効率化に計画的に取り組んでいるか	○	団体の規模が小さいことから定員管理計画等は定めていないが、事務局規程により組織を規定している。コーディネーターの確保に当たっては金融機関などからの出向者や教員研修者の受け入れなど、組織体制の効率化に取り組んでいる。
常勤の役員に占める県職員を必要最小限にとどめているか	○	常勤専務理事(事務局長を兼務)に県OB1人を充てている。AOIプロジェクトが県の推進する先端農業プロジェクトであり、県と密接な連携において事業を展開する必要があるため、必要最小限の配置である。
常勤の職員に占める県からの派遣職員を必要最小限にとどめているか	○	事務局職員に県派遣職員1人を充てている。県との連携協力のための必要最小限の配置である。

※ 評価欄 … ○:基準を満たしている △:基準を満たしていないが合理的理由がある ×:基準を満たしていない

3 点検評価(県所管課記載)

項目	評価	評価理由
県からの派遣職員について、必要性、有効性が認められるか	○	県の主要施策であるAOIプロジェクトを推進する上で、本団体との連携を密にし、県及び本団体が主体的に事業を実施するために、派遣職員は重要な役割を担っている。
県からの補助金等の支出や借入金等について、必要性、有効性が認められるか	○	農林水産業及び関連産業分野における革新的な技術開発及び事業化を複数の協働により実現するオープンイノベーションの支援を通じて、産業の振興につながるビジネス展開を支援するため、本団体は産業支援機関として重要な役割を担っており、県からの補助金により効果的に事業を展開している。

※ 評価欄 … ○:基準を満たしている △:基準を満たしていないが合理的理由がある ×:基準を満たしていない

VI 更なる効果的事業の実施に向けた取組

1 外部意見把握の手法及び意見

区分	実施	結果公表	実施内容	主な意見・評価
外部評価委員会	○	-	シニアアドバイザー会議を令和6年3月5日開催 ・シニアアドバイザー2名、統括プロデューサー、研究統括、IT統括が出席 ・団体の活動状況を報告し、事業実施や今後の団体のあり方等について意見交換を実施。	・全国農業高校農業大学校デジタルコンテストで、高校HPの取組を評価しているが、さらに交流可能なプラットフォームに発展させることが必要など、次世代人材の育成について意見をいただいた。
利用者アンケート	○	-	①7月11日AOIフォーラム会員総会(回答者:55名) ②8月30日AOIフォーラム会員交流会(回答者19名) ③9月23日AOIフォーラム会員視察バスツアー(回答者:18名) ④1月23日AOIフォーラム会員交流会(回答者27名)	①回答者の85%が「好評価(満足、やや満足)」と回答。 ②回答者の76%が「好評価(満足、やや満足)」と回答。 ③回答者の100%が「好評価(満足、やや満足)」と回答。 ④回答者の100%が「好評価(満足、やや満足)」と回答。
利用者等意見交換会	○	-	AOIフォーラム会員総会を7月11日に開催し、会員に対して実施した事業とその成果について報告した。	様々な取組について知る機会となった、新たな気づきを得ることができた等の評価や、キーとなるCDの専門性・実績等の説明が欲しいとの要望が聞かれた。
その他 ()	○	-	・月例で開催するAOIプロジェクト研究調整会議(AOI-PARCに入居する県先端農業推進室、県農技研、慶應、理研、AOI機構で構成)に参加し、プロジェクトの事業化などKPIなどについて報告、意見交換を実施。	・事業化した案件のその後の状況について進捗管理が重要であり、情報共有を進めていくこととなった。 ・事業化がうまくいかなかった案件が、なぜうまくいかなかったかをきちんと把握してフィードバックする仕組みが大事であるとの意見をいただいた。

○:実施している/公表している -:実施していない/公表していない

2 事業やサービスの見直し例

<p>・1月23日のAOIフォーラム会員交流会では、発表を行う会員だけの参加に限定せずに発表を聴講するオーディエンスも参加できるようにし、より活発な交流が図れるようにした。</p> <p>・出展イベントでは、11月2～3日に開催された沼津市産業フェア「市制100周年記念沼津産業フェア ぬまづ未来博2023」にAOI機構・MaOI機構・ファルマバレーセンターでブース連結して一つのブースとして出展し、来場者がブース内周遊できるようにして多くの来場者へのPRに繋がるようにした。</p>
--